

支援だより

茨城県立内原特別支援学校
支援部

令和7年度 第2号 (12月発行)

8月6日(水)特別支援教育コーディネーター研修・情報交換会

茨城キリスト教大学 准教授 斎藤 遼太郎先生より「切れ目ない支援」の講話を行いました。その中で、幼保小中高で水戸市特別支援教育CO中学校区グループでの情報交換や講義内容に関しての協議を行いました。

また、本校の国語・算数数学、自立活動、道徳、図工などの教材や特別支援に関する図書や教科用図書の展示を行いました。地域の横のつながり、保幼小中高の縦のつながりと本校とのネットワーク構築となりました。

«感想»「同じ学区内の様々な学校や園の先生方と話をする場は、連携を図っていく上で必要であると感じた。」「教材教具の展示がとても参考になった。」



巡回相談 ~職員研修の一部を紹介~ 講師の先生【所属】(依頼先)

土井隆義先生【筑波大学】(高等学校)

「人間関係をめぐる光と影—時代精神の変容から考える—」の講義を行ってくださいました。先生は、若者が抱える生きづらさの内実とその社会的背景について、問題行動を糸口に人間関係論の観点から生徒理解を深めるための講義内容でした。参加された先生方からは「生徒同士の関係把握に役に立つ」「生徒の心に寄り添った相談活動に活かせる」など、日々の姿勢に変化が見られたようでした。

三橋翔太先生【埼玉大学】(小学校)

「通常の学級の支援を要する児童への支援・指導・配慮方法について」の講義を行ってくださいました。障害児心理の専門家から見た支援を要する児童の困難の要因とそれを踏まえた指導・支援の手がかりについての講義内容でした。参加された先生方からは、担任している学級の気になる児童に対する質問が多数出されるなど、意識の高さが伺えました。

金丸隆太先生【茨城大学】(小学校)

「愛着(アタッチメント)障害について」の講義を行ってくださいました。アタッチメントの概念から、教育現場での障害の理解や具体的な支援方法についての講義内容でした。講義の最後に「教職員の安心感を大事にしましょう」教職員自身のケアに対する具体的な助言もいただきました。講義を受け、その後の指導には児童の気持ちの言語化や受容するなどの対応が見られるようになったようでした。

野仲千穂先生【立川記念病院】(幼稚園)

ぎこちなさのある幼児の支援方法について～作業療法の支援から～助言を行ってくださいました。感覚統合の考え方から、下位・土台部分の感覚が発達していくことで、上位部分が発達していくことについて図を示していただきながら助言を頂きました。対象児の担任の先生はもちろんのこと、園内研修で学んだことを職員で共有し、保育や支援に活かしていきたいとのご意見がありました。

支援部ミニコーナー

専門家派遣事業や医療相談などで、専門家の方からの助言や教えて頂いたことなどから、日頃の指導の参考になるなど感じたことをお伝えします。



感情のラベリング

支援者が、本人の一次感情を受容し、本人の気持ちを言語化することで、自分の感情を認識する支援ができる。

児童生徒本人が、自分の感情を表現し対処していくための望ましい行動につなげていくために大切なこと。

今後の活動予定

2/20(金) 通学区域内特別支援教育コーディネーター情報交換会

場所: 本校体育館 時間: 10:00~12:00(予定)

※お申込みの後、詳細を文書でお送り致します。

随時 学校見学や巡回相談・諸相談を実施しています。

日程に余裕をもってお問い合わせください。

相談支援センターのメールアドレス

uchishienhara@uchihara-sn.ibk.ed.jp